

## 2020 年度日本藻類学会総会議題および資料

### 1. 報告事項

#### (1) 庶務関係

会員状況（庶務・会員事務）	資料 1 (P. 2)
2019 年度事業報告（庶務）	資料 2 (P. 2)
持ち回り評議員会の実施（庶務）	資料 3 (P. 2)
AlgaeBase のスポンサーとしてのサポート（庶務・海外担当）	資料 4 (P. 3)
和文誌「藻類」の転載許可状況（庶務）	資料 5 (P. 3)
自然史学会連合（庶務）	資料 6 (P. 3)
日本分類学会連合（庶務）	資料 7 (P. 3)
水産・海洋科学研究連絡協議会（庶務）	資料 8 (P. 3)
和文誌「藻類」バックナンバーの学会 HP 上への掲載状況（庶務）	資料 9 (P. 3)
学会 HP による情報配信と記載内容の更新（庶務）	資料 10 (P. 3)
同報メールによる情報配信（庶務）	資料 11 (P. 3)

#### (2) 会計関係

会費納入状況（会員事務）	資料 12 (P. 3)
2019 年度決算・会計監査（会計）	資料別紙 1 および 2 (P. 6, 7)

#### (3) 編集関係

英文誌（英文誌編集長）	資料別紙 3 (P. 7)
発行状況	
編集状況	
その他	
和文誌（和文誌編集委員長）	資料別紙 4 (P. 9)
発行状況	
編集状況	
その他	

### 2. 審議事項

(1) 2019 年度会計決算・同監査（会計）	資料別紙 1 および 2 (P. 6, 7)
(2) 2020 年度事業計画案（庶務）	資料 13 (P. 4)
(3) 2020 年度会計予算案（会計）	資料別紙 5 (P. 10)
(4) 学会賞の授与について（庶務）	資料 14 (P. 4)
(5) 今後の大会開催地について（庶務）	資料 15 (P. 5)
(6) その他	
(6-1) 会則改正について	資料別紙 6 および 7 (P. 11, 12)

## 資料1：会員状況（2020年2月28日現在）

年度末会員数

会員数	2019年 12月末日	雑誌発送会員 (2019年12月末日)	雑誌発送 停止会員	連絡停 止会員	2020年2月 28日現在	雑誌発送会員 (2020年2月)	退会者	入会者	入会者	
							2019年	2019年	2020年2月	
名誉会員	3	3	0	0	3	3	0	0	0	
普通会員										
国内	一般	601	413	16	172	598	400	11	10	6
	学生	248	85	22	141	237	79	43	48	30
外国	184	35	149	149	184	35	4	1	0	
賛助会員	8	7	0	1	7	6	1	0	0	
団体会員	44	43	0	1	44	43	0	1	0	
計	1088	586	187	464	1073	566	59	60	36	

## 資料2：2019年度事業報告

- 1) 日本藻類学会第43回大会・評議員会・総会（京都大学吉田南キャンパス，2019年3月15日～17日）の開催
- 2) 和文誌「藻類」67巻1～3号の発行（3，7，11月発行）
- 3) 英文誌「Phycological Research」67巻1～4号の発行（1，4，7，10月発行）
- 4) 持ち回り評議員会の実施（5回）
- 5) AlgaeBaseのスポンサーとしてのサポート
- 6) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の授与（2019年3月授与）と募集，選考（2020年3月授与）
- 7) 日本藻類学会学術賞・山田賞の授与（2019年3月授与）と募集，選考（2020年3月授与）
- 8) 第15回日本藻類学会研究奨励賞の選考，授与と第16回日本藻類学会研究奨励賞の募集
- 9) 第22回日本藻類学会論文賞の授与と第23回日本藻類学会論文賞の選考
- 10) 日本藻類学会第43回京都大会公開シンポジウム「琵琶湖における藍藻類ブルームの現状と問題点，対策と展望」の開催
- 11) 藻類学ワークショップの開催
  - (1) ワークショップA「HPLCによる色素解析セミナー」（2019年3月15日，京都大学吉田南構内総合人間学部棟1201室）
  - (2) ワークショップB「琵琶湖博物館見学会」（2019年3月15日，滋賀県立琵琶湖博物館）
- 12) 和文誌「藻類」の転載許可
- 13) 自然史学会連合の事業に参加
- 14) 日本分類学会連合の事業に参加
- 15) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加
- 16) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載
- 17) 学会HPによる情報配信
- 18) 同報メールによる情報配信
- 19) その他
  - ・日本藻類学会学生発表賞選考実施要領を決定（第3回持ち回り評議員会にて承認）

- ・大会における託児支援に関する申し合わせを決定（第5回持ち回り評議員会にて承認）

## 資料3：持ち回り評議員会の実施

2019年度は5回の持ち回り評議員会を実施した。詳細は「藻類」67巻2号および68巻1号に掲載。

- 1) 第1回持ち回り評議員会（2019年2月4日～2月18日）  
議題：日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき，学術賞（2019年3月授与）を川井浩史氏に授与することの可否。  
結果：国内評議員16名のうち13名からの回答があり，回答者全員の賛成により承認された。  
議題：日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき，第15回研究奨励賞（2019年3月授与）を大沼亮氏，および松崎令氏に授与することの可否。  
結果：国内評議員16名のうち13名からの回答があり，回答者全員の賛成により承認された。
- 2) 第2回持ち回り評議員会（2019年2月25日～3月11日）  
議題：次期和文誌編集委員長を芹澤 如比古会員とすることの可否。  
結果：国内評議員16名のうち14名からの回答があり，回答者全員の賛成により承認された。
- 3) 第3回持ち回り評議員会（2019年10月31日～11月15日）  
議題：日本藻類学会学生発表賞選考実施要領を別紙（案）の通り決定することの可否。  
結果：国内評議員16名中12名からの回答があり，回答者全員の賛成により承認された。  
※ 学生発表賞については学会ホームページの次のサイトをご覧ください。<http://sourui.org/records/gakuseihappyo.html>
- 4) 第4回持ち回り評議員会（2019年11月19日～12月3日）  
議題：日本藻類学会編集委員会内規の英文誌編集委員会内規を次の通り変更することの可否。  
(変更前)  
1. 英文誌編集委員会は編集長（Editor-In-Chief）1名，

副編集長 (Associate Editor) 若干名, 編集委員 (Members of Editorial Advisory Board) 若干名をもって構成する。  
(変更後)

1. 英文誌編集委員会は編集長 (Editor-In-Chief) 1 または複数名, 副編集長 (Associate Editor) 若干名, 編集委員 (Members of Editorial Advisory Board) 若干名をもって構成する。

結果: 国内評議員 16 名中 14 名からの回答があり, 回答者全員の賛成により承認された。

議題: 次期英文誌編集委員長をグレゴリー-N. ニシハラ 会員および瀧下 清貴 会員とすることの可否。

結果: 国内評議員 16 名中 14 名からの回答があり, 回答者全員の賛成により承認された。

5) 第 5 回持ち回り評議員会 (2019 年 12 月 23 日~2020 年 1 月 6 日)

議題: 大会における託児支援に関する申し合わせを別紙 (案) の通り決定することの可否。

結果: 国内評議員 16 名のうち 13 名からの回答があり, 回答者全員の賛成により承認された。

#### 資料 4: AlgaeBase のスポンサーとしてのサポートについて

5 万円を PayPal を通して支払った (日本藻類学会のロゴを HP に乗せることによる広告費として)。

#### 資料 5: 和文誌「藻類」の転載許可状況

2019 年度は申請がありませんでした。

#### 資料 6: 自然史学会連合

2019 年度自然史学会連合総会が, 2019 年 12 月 21 日に日能研・西日暮里教室で開催された (北山 太樹会員が出席)。詳細は「藻類」68 巻 2 号に掲載予定。

#### 資料 12: 会費納入状況

2019 年度会費

		会員数	長期滞納者数	雑誌発送 会員数	会費納入数 (通常)	会費納入数 (自動振替)	会費納入率	
		<a>	(2017 年度以前より) <b>	<c=a-b>	<d>	<e>	全会員中 <d+e/a>	雑誌発送会員中 <d+e/c>
普通会員								
国内	一般	601	188	413	305	98	67%	98%
	学生	248	163	85	89	0	36%	105%
外国		187	142	45	28	0	15%	62%
賛助会員		8	1	7	5	2	88%	100%
団体会員		44	1	43	34	0	77%	79%
計		1088	495	593	461	100	52%	95%

#### 資料 7: 日本分類学会連合

日本分類学会連合第 18 回総会およびシンポジウムが 2019 年 1 月 12 日に国立科学博物館上野本館講堂にて開催された (峯 一朗庶務幹事が出席)。詳細は「藻類」67 巻 1 号に掲載。

#### 資料 8: 水産・海洋科学研究連絡協議会

令和元年度第 1 回協議会が 2019 年 5 月 30 日におよび令和元年度第 2 回協議会が 2019 年 11 月 28 日に東京海洋大学品川キャンパスにて開催された (両回とも鈴木 秀和会員が出席)。詳細は「藻類」67 巻 3 号および 68 巻 1 号に掲載。

#### 資料 9: 和文誌「藻類」バックナンバーの学会 HP への掲載状況

2020 年 3 月現在, 2017 年 65 巻 3 号までの PDF file を閲覧・ダウンロードできる状況。

#### 資料 10: 学会 HP による情報配信と記載内容の更新

2019 年度に掲載した主な内容は, 大会案内, 学会・シンポジウム等のお知らせ 11 件, 研究助成の募集 2 件, 諸賞の募集 2 件, 教員・研究員の公募 5 件, その他のお知らせ 3 件。更新した内容は, 学会役員・歴代役員・研究奨励賞・論文賞等の学会資料集, 大会案内など。

#### 資料 11: 同報メールによる情報配信

2020 年 3 月現在, 280 件が送信先リストに登録されている。2019 年度は計 13 回のメール配信を行った。主な内容は集会・シンポジウム等のお知らせ 8 件, 諸賞の募集 1 件, 教員・研究員の公募 1 件, 研究助成の募集 1 件, その他 2 件。

## 2020 年度会費 (2020 年 2 月 28 日現在)

		会員数	長期滞納者数	雑誌発送 会員数	会費納入数 (通常)	会費納入数 (自動振替)	会費納入率	
		<a>	(2018 年度以前より) <b>	<c=a-b>	<d>	<e>	全会員中 <d+e/a>	雑誌発送会員中 <d+e/c>
普通会員								
国内	一般	598	198	400	225	99	54%	81%
	学生	237	158	79	59	0	25%	75%
外国		184	149	35	25	0	13%	71%
賛助会員		7	1	6	0	1	14%	17%
団体会員		44	1	43	6	0	14%	14%
計		1070	507	563	315	100	39%	74%

## 資料 13 : 2020 年度事業計画 (案)

- 1) 日本藻類学会第 44 回大会・評議員会・総会 (鹿児島大学郡元キャンパス, 2020 年 3 月 26 ~ 28 日) の開催 (大会は中止となりました。評議員会はメール会議で行います。総会の開催方法は別途会員に通知します。)
- 2) 和文誌「藻類」68 巻 1 ~ 3 号の発行 (3, 7, 11 月発行)
- 3) 英文誌「Phycological Research」68 巻 1 ~ 4 号の発行 (1, 4, 7, 10 月発行)
- 4) 日本藻類学会編「藻類事典」(仮称) の出版準備
- 5) 藻類和名の整理に向けた「藻類和名のワーキンググループ」の活動
- 6) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の授与 (2020 年 3 月), 募集と選考 (2021 年 3 月授与)
- 7) 日本藻類学会学術賞・山田賞の授与 (2020 年 3 月), 募集と選考 (2021 年 3 月授与)
- 9) 第 16 回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与 (2020 年 3 月) と第 17 回日本藻類学会研究奨励賞の募集と選考 (2021 年 3 月授与)
- 10) 第 23 回日本藻類学会論文賞の授与 (2020 年 3 月) と第 24 回日本藻類学会論文賞の選考 (2021 年 3 月授与)
- 11) 日本藻類学会第 44 回鹿児島大会公開シンポジウム「藻類研究: 多様なアプローチ, 見えてきたこと, これから求められること」の開催, 講演者: 野崎 久義 (東大・理学系・生物科学), 真山 茂樹 (東京学芸大・生物), 堀口 健雄 (北大・院・理), 奥田 一雄 (高知大), 川井 浩史 (神戸大・内海城) (2020 年 3 月 28 日, 鹿児島大学共通教育棟 1 号館 1 階 111 号講義室) (中止となりました)
- 12) 藻類学ワークショップの開催  
「R を用いた藻類データの解析セミナー」(2020 年 3 月 26 日, 鹿児島大学水産学部 5 号館 1 階学生実験室 1-1, 1-2) (中止となりました)
- 13) 和文誌「藻類」バックナンバー 66 巻 1 ~ 3 号までの PDF file の学会 HP 上への掲載
- 14) AlgaeBase のスポンサーとしてのサポート
- 15) 自然史学会連合の事業に参加

- 16) 日本分類学会連合の事業に参加
- 17) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加
- 18) 学会 HP による情報配信
- 19) 同報メールによる情報配信
- 20) その他

## 資料 14 : 学会賞の授与について

- 1) 日本藻類学会特別賞 (岡村賞; 2020 年 3 月授与)  
受賞者: 能登谷 正浩 氏  
※ 2020 年度第 1 回持ち回り評議員会にて決定
- 2) 日本藻類学会学術賞 (山田賞; 2020 年 3 月授与)  
受賞者: 野崎 久義 氏  
※ 2020 年度第 4 回持ち回り評議員会にて決定
- 3) 第 16 回日本藻類学会研究奨励賞 (50 音順)  
受賞者: 鈴木 重勝 氏  
所属: 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター  
研究課題名: 二次共生成立過程における共生者ゲノム縮退進化の研究  
受賞者: 西村 朋宏 氏  
所属: 日本学術振興会 海外特別研究員 (Cawthron Institute, New Zealand)  
研究課題名: 底生性有毒渦鞭毛藻の系統分類学および生態学的研究  
※ 2020 年度第 2 回持ち回り評議員会にて決定
- 4) 第 23 回日本藻類学会論文賞  
受賞論文: Watanabe, K., Homma, Y., Karakisawa, H., Ishikawa, R., & Uwai, S. 2019. Haplotypic differentiation between seasonal populations of *Sargassum horneri* (Fucales, Phaeophyceae) in Japan. *Phycol. Res.* 67: 59-64.  
※ 2020 年度第 3 回持ち回り評議員会にて決定

## 資料 15：今後の大会開催地について

## 大会開催地一覧

	期 日	場 所	大会会長	参加人数
第1回	1977年4月1日	東京学芸大学(東京)	古谷庫造	97名
第2回	1978年4月1日	東京学芸大学(東京)	小林 弘	110名
第3回	1979年4月1日	東京水産大学(東京)	片田 実	127名
第4回	1980年3月31日-4月1日	東京水産大学(東京)	片田 実	130名
第5回	1981年3月31日-4月1日	筑波大学(つくば)	西澤一俊	125名
第6回	1982年3月30日-4月1日	筑波大学(つくば)	山岸高旺	125名
第7回	1983年7月25日-7月26日	室蘭プリンスホテル(室蘭)	阪井與志雄	111名
第8回	1984年3月31日-4月1日	東京学芸大学(東京)	加崎英男	133名
第9回	1985年3月28日-3月29日	東京学芸大学(東京)	小林 弘	130名
第10回	1986年3月30日-3月31日	筑波大学(つくば)	福島 博	146名
第11回	1987年3月30日-3月31日	京都大学楽友会館(京都)	坪 由宏	120名
第12回	1988年3月30日-3月31日	三重大学生物資源学部(津)	岩崎英雄	130名
第13回	1989年3月30日-3月31日	東京女子体育大学(東京)	福島 博	153名
第14回	1990年3月29日-3月30日	神戸大学教養部(神戸)	坪 由宏	132名
第15回	1991年3月27日-3月28日	琉球大学教養部(沖縄)	香村真徳	119名
第16回	1992年3月30日-3月31日	東京水産大学(東京)	三浦昭雄	133名
第17回	1993年3月30日-3月31日	東海大学海洋学部(清水)	山田信夫	131名
第18回	1994年3月29日-3月31日	富山県民会館(富山)	濱田 仁	164名
第19回	1995年3月28日-3月29日	高知城ホール(高知)	大野正夫	151名
第20回	1996年3月28日-3月29日	東邦大学理学部(船橋)	吉崎 誠	250名
第21回	1997年3月26日-3月28日	広島大学理学部(東広島)	中野武登	178名
第22回	1998年3月25日-3月27日	下田東急ホテル(下田)	横濱康継	222名
第23回	1999年3月27日-3月30日	山形大学理学部(山形)	高橋永治	191名
第24回	2000年3月28日-3月31日	長崎大学環境科学部(長崎)	四井敏雄	207名
第25回	2001年3月27日-3月29日	日本歯科大学歯学部(東京)	小宮定志	254名
第26回	2002年7月19日-7月24日	産業技術総研(つくば)	渡辺真之	366名
第27回	2003年3月27日-3月30日	三重大学生物資源学部(津)	前川行幸	238名
第28回	2004年3月27日-3月30日	北海道大学学術交流会館(札幌)	本村泰三	208名
第29回	2005年3月27日-3月30日	京都大学吉田南総合館(京都)	中原紘之	256名
第30回	2006年3月26日-3月29日	鹿児島大学稲盛会館(鹿児島)	野呂忠秀	224名
第31回	2007年3月24日-3月26日	神戸大学理学部(神戸)	川井浩史	225名
第32回	2008年3月21日-3月24日	東京海洋大学海洋科学部(東京)	能登谷正浩	244名
第33回	2009年3月26日-3月29日	琉球大学千原キャンパス(沖縄)	松田伸也	265名
第34回	2010年3月19日-3月22日	筑波大学筑波キャンパス(つくば)	笠井文絵	265名
第35回	2011年3月26日-3月29日	富山大学五福キャンパス(富山)	渡邊 信	239名
第36回	2012年7月13日-7月15日	北海道大学学術交流会館(札幌)	堀口健雄	248名
第37回	2013年3月27日-3月29日	山梨大学甲府キャンパス(甲府)	御園生 拓	180名
第38回	2014年3月14日-3月16日	東邦大学習志野キャンパス(船橋)	宮地和幸	255名
第39回	2015年3月20日-3月22日	九州大学箱崎キャンパス(福岡)	川口栄男	252名
第40回	2016年3月18日-3月20日	日本歯科大学生命歯学部(東京)	南雲 保	326名
第41回	2017年3月23日-3月25日	高知大学朝倉キャンパス(高知)	奥田一雄	240名
第42回	2018年3月23日-3月25日	東北大学農学研究科(仙台)	吾妻行雄	255名
第43回	2019年3月15日-3月17日	京都大学吉田南キャンパス(京都)	宮下英明	268名
第44回	2020年3月26日-3月28日	鹿児島大学郡元キャンパス(鹿児島)	寺田竜太	
第45回	2021年3月	東京海洋大学品川キャンパス(東京)	藤田大介	

\* 第26回大会は日本藻類学会創立50周年記念行事と第3回 APPF との合同開催

\* 第44回大会は新型コロナウイルス感染症対応のため中止

## 資料別紙 1

## 2019年度一般会計決算(案)(2019.1.1-2019.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		4,926,000	和文誌経費		1,599,249
普通(国内・一般)	3,170,000		英文誌経費		5,420,000
普通(国内・学生)	510,000		編集費		107,620
外国会員	246,000		和文誌編集補助費	48,620	
団体会員	820,000		英文誌編集補助費	59,000	
賛助会員	180,000		庶務費		294,853
和文誌関係収入		396,121	事務用品費	34,649	
定期購読	155,250		会議費	45,680	
バックナンバー	0		通信印刷費	214,524	
別刷・超過頁代	220,160		諸雑費	0	
広告代	19,785		幹事旅費補助		20,680
著作権許諾料金	926		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		2,219,319	自然史学会連合分担金		20,000
超過頁代	180,000		分類学会連合分担金		10,000
版權還付金	2,039,319		レンタルサーバー代		7,028
受取利息		90	AlgaeBaseへの寄付		0
その他		31,060	派遣旅費補助		0
小計		7,572,590	小計		7,599,430
前年度繰越金		13,037,379	次年度繰越金		13,010,539
合計		20,609,969	合計		20,609,969

和文誌経費内訳		英文誌経費内訳		通信印刷費内訳		AlgaeBaseへの寄付	
藻類67(1)	751,233	Phycol. Res. 67(1)	1,355,000	会費自動振替等手数料	21,238	2019年度分	0
藻類67(2)	422,170	Phycol. Res. 67(2)	1,355,000	支払手数料	70,368	計	0
藻類67(3)	425,846	Phycol. Res. 67(3)	1,355,000	郵送料等(会費請求など)	122,918	立替払いの清算が年度内に できなかったため2020年度 に計上予定	
計	1,599,249	Phycol. Res. 67(4)	1,355,000	計	214,524		
		計	5,420,000				

2019年度研究奨励賞事業特別基金 会計決算(案)(2019.1.1-2019.12.31)			
収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,042,561	奨励賞賞金	200,000
受取利息	18		
		次年度繰越金	1,842,579
合計	2,042,579	合計	2,042,579

2019年度山田幸男博士記念事業特別基金 会計決算(案)(2019.1.1-2019.12.31)			
収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,236,052	各賞用雑費	19,335
受取利息	20	記念品費	80,000
		次年度繰越金	2,136,737
合計	2,236,072	合計	2,236,072

## 2019年度一般会計予算・決算の比較(収入)

収入		予算(円)		決算(円)		達成率(%)
会費		4,877,100		4,926,000		101.0
普通(国内・一般)	3,095,600		3,170,000		102.4	
普通(国内・学生)	432,250		510,000		118.0	
普通(外国)	299,250		246,000		82.2	
団体会員	840,000		820,000		97.6	
賛助会員	210,000		180,000		85.7	
和文誌関係収入		417,850		396,121		94.8
定期購読	111,600		155,250		139.1	
バックナンバー	5,250		0		0.0	
別刷・超過頁代	180,000		220,160		122.3	
広告代*	120,000		19,785		16.5	
著作権許諾料金	1,000		926		92.6	
英文誌関係収入		2,600,000		2,219,319		85.4
超過頁代	600,000		180,000		30.0	
版權還付金	2,000,000		2,039,319		102.0	
受取利息		70		90		128.6
その他		0		31,060		
小計		7,895,020		7,572,590		95.9
前年度繰越金		13,037,379		13,037,379		100.0
合計		20,932,399		20,609,969		98.5

\*1社が67-2から広告を中止、もう1社の支払いが2020年度になったため達成率が低くなっています。

## 2019年度 一般会計予算・決算の比較（支出）

支出	予算 (円)	決算 (円)	達成率 (%)
和文誌経費	1,800,000	1,599,249	88.8
英文誌経費	5,420,000	5,420,000	100.0
編集費	300,000	107,620	35.9
和文誌編集補助費	100,000	48,620	48.6
英文誌編集補助費	200,000	59,000	29.5
庶務費	367,000	294,853	80.3
事務用品費	30,000	34,649	115.5
会議費	60,000	45,680	76.1
通信印刷費	270,000	214,524	79.5
諸雑費	7,000	0	0.0
幹事旅費補助	80,000	20,680	25.9
大会補助費	120,000	120,000	100.0
自然史学会連合分担金	20,000	20,000	100.0
分類学会連合分担金	10,000	10,000	100.0
レンタルサーバー代	7,000	7,028	100.4
AlgaeBase への寄付	50,000	0	0.0
派遣旅費補助	50,000	0	0.0
小計	8,224,000	7,599,430	92.4
次年度繰越金	12,708,399	13,010,539	102.4
合計	20,932,399	20,609,969	98.5

## 資料別紙 2

## 会計監査報告書

日本藻類学会

会長 奥田 一雄 様

日本藻類学会の2019年度（2019年1月1日～2019年12月31日）の会計監査にあたり、収入・支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正に処理されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

2020年3月5日 会計監事 平岡 雅規 印

2020年2月28日 会計監事 鈴木 雅大 印

## 資料別紙 3 英文誌関連

## 1. Phycological Research 発行・編集状況

(1) 2006年以降の各巻の論文掲載状況（2020年3月7日現在）

年	巻	総ページ数	掲載論文数	審査員（日本人，外国人）
2006	54	340	36	109名（27名，82名）
2007	55	314	31	63名（25名，38名）
2008	56	325	34	85名（29名，56名）
2009	57	331	35	75名（22名，53名）
2010	58	311	34	88名（25名，63名）
2011	59	310	36	64名（34名，30名）
2012	60	325	31	160名（38名，122名）
2013	61	315	36	123名（33名，90名）
2014	62	323	33	97名（20名，77名）
2015	63	317	34	146名（47名，99名）
2016	64	318	35	153名（36名，117名）
2017	65	340	38	137名（36名，101名）
2018	66	330	37	132名（41名，91名）
2019	67	329	40	127名（41名，86名）
2020	68	(103)	(12)	

(2) 投稿数の推移（2020年3月3日現在）

年	投稿数	国内	国外	受理	却下	取下げ	編集中
2006	67	22	45				
2007	59	13	46				
2008	74	20	54				
2009	48	13	35				
2010	77	19	58	38	33	6	
2011	74	15	59	34	37	3	
2012	81	21	60	42	38	1	
2013	65	16	49	29	31	5	
2014	71	11	59	29	38	4	
2015	83	10	73	30	47	6	
2016	105	18	87	51	49	5	
2017	105	21	84	38	62	5	
2018	97	19	78	30	45	0	
2019	74	17	57	21	46	0	7
2020	18	7	11	0	8	0	10

\* 審査員数の算出方法は、2011年まで「年度内に Accept か Reject が出た原稿を審査した審査員」、2012年より「最終決定の有無にかかわらず年度内に審査結果を提出した審査員」

## (3) 2020 年以降の編集状況 (2020 年 3 月 7 日現在)

Phycological Research 68 (1) 発刊済み (1 月)	12 報
Phycological Research 68 (2) 発刊予定 (4 月)	10 報
Phycological Research 68 (3) 発刊予定 (7 月)	
Phycological Research 68 (4) 発刊予定 (10 月)	
受理済み論文数 (3 号以降に掲載)	9 報

(4) 2019 年に投稿された原稿の編集業務に要した日数  
(2020 年 3 月 7 日現在)

	First decision			Final decision			n
	Ave	Max	Min	Ave	Max	Min	
Accepted manuscripts	58	130	27	130	227	56	21
Rejected manuscripts	15	106	0	18	152	0	46

参考：2018 年に投稿された原稿の編集業務に要した日数  
(2019 年 2 月 23 日現在)

	Average	Maximum	Minimum	n
Accepted manuscripts	149	372	32	30
Rejected manuscripts	32	128	0	45

(5) 2019 年の投稿者の国名  
(2020 年 3 月 7 日現在)

国名	投稿数	受理	却下
Australia	1	1	
Chile	1		1
China	17	2	13
Egypt	1		1
France	1	1	
Hungary	1	1	
India	6		6
Indonesia	1		1
Iran	4		4
Japan	17	12	2
Korea	1		1
Malaysia	1		1
Mexico	2		2
Pakistan	1		1
Poland	1		1
Portugal	3		3
Qatar	1		1
Russia	1		1
South Africa	1		1
Thailand	3	2	1
Tunisia	1		1
Turkey	4		4
United States	4	2	
Total	74	21	46

\* 編集中の原稿数 = 投稿数 - 受理 - 却下 - 取下げ

参考：2018 年の投稿者の国名  
(2019 年 2 月 23 日現在)

国名	投稿数	受理	却下
Australia	2	1	
Bangladesh	1		1
Belgium	1	1	
Brazil	6	2	4
Canada	2	1	1
Chile	1		1
China	11	1	5
Czech Republic	3	1	2
Denmark	1	1	
Ethiopia	1		1
Germany	1		1
India	11	1	8
Iran	8	1	7
Ireland	1		
Italy	1		
Japan	16	9	2
Korea	3	1	2
Mexico	2	1	
New Zealand	2	2	
Poland	1	1	
Singapore	1	1	
Spain	3	1	
Switzerland	2	1	1
Taiwan	1		1
Tanzania	1		
Thailand	2	1	
Tunisia	1		
Turkey	5	1	4
United States	4	1	2
Viet Nam	2		2
Total	97	30	45

## 2. Impact Factor について

year	IF	IF Ranking (Marine & Freshwater Biology)
2006 年	1.069	44 of 79
2007 年	0.836	58 of 86
2008 年	0.955	56 of 87
2009 年	1.246	46 of 88
2010 年	1.186	52 of 93
2011 年	1.543	44 of 97
2012 年	1.086	61 of 100
2013 年	0.955	72 of 103
2014 年	1.273	60 of 103
2015 年	1.42	56 of 104
2016 年	1.338	56 of 105
2017 年	1.275	61 of 106
2018 年	1.342	63 of 108

## 3. 編集体制について

(1) 2020 年より下記の新編集長が就任しました。編集長を 2 名とする体制をとります。

新編集長 西原 グレゴリー, 瀧下 清貴 旧編集長 小亀 一弘

(2) 2018 から 2019 年にかけて、副編集長に次の異動がありました。

【新任】小亀 一弘, Anchana Prathep, 須田 彰一郎, 田辺 雄彦

【退任】Jeong Ha Kim, 宮下 英明, 西原 グレゴリー

## 4. 英文誌編集費の支出について

2019 年の支出として、下記がありました。

(1) 日本藻類学会プライバシーポリシーの英語への翻訳代金 (10,000 円)

(2) Phycological Research vol. 43-51 スキャン, PDF ファイル作成 (15,000 円)

## 5. その他

## (1) 投稿数減少への対応

上記 1. (2) 投稿数の推移、に示した通り、2018 年 (あるいはそれ以前) と比べて 2019 年の全体の投稿数が減少しています。実際に審査に回した投稿原稿の数は半分程度まで減少しており、英文誌編集委員会としても重大な問題だと認識しています。

減少の原因は明らかではありませんが、審査に極端に長い日数がかかっている場合があることもその一つと考えており、当面は審査に要する時間を一定程度抑える対策を講じていきたいと思います。

また、その他にも投稿先としての魅力を高める方策を検討して行きます。例えば、Review Article を増やすこと、BioRxiv を利用するなど投稿の利便性を高めること、Methods Article などの新たな論文形式を追加すること、などを考えていますが、学会員の皆さんの積極的な投稿をお願いしたいと思います。

## 資料別紙 4 和文誌関連

### 1. 2020 年度編集委員会委員，同実行委員と役割分担

委員長 芹澤 如比古 (山梨大学) [ 編集全般・論文通信 ]  
 副委員長 岩滝 光儀 (東京大学) [ 統括論文通信・原稿チェック ]  
 嶋田 智 (お茶の水女子大学) [ 論文通信・校正チェック ]  
 須田 彰一郎 (琉球大学) [ 編集全般・校正チェック ]  
 実行委員 四ツ倉 典滋 (北海道大学) [ 論文通信 ]  
 仲田 崇志 (横浜国立大学) [ 論文通信・藻類学最前線 ]  
 羽生田 岳昭 (神戸大学) [ 藻類学最前線 ]  
 市原 健介 (北海道大学) [ 藻類学最前線 ]  
 平川 泰久 (筑波大学) [ 藻類学最前線 ]  
 矢吹 彬憲 (JAMSTEC) [ 藻類学最前線 ]  
 中山 剛 (筑波大学) [ 大会プログラム ]  
 山口 晴代 (国立環境研) [ 大会プログラム ]  
 阿部 真比古 (水産大学校) [ 論文通信・PR 要旨 ]  
 北山 太樹 (国立科学博物館) [ 論文通信 ]  
 倉島 彰 (三重大学) [ 論文通信 ]  
 豊田 健介 (日本歯科大学) [ 論文通信 ]  
 島袋 寛盛 (瀬戸内海区水産研究所) [ 論文通信 ]  
 秋野 秀樹 (道総研稚内水産試験場) [ 論文通信 ]  
 芹澤 (松山) 和世 (山梨大学) [ 論文通信・渉外 ]  
 委員 奥田 一雄 (高知大学)  
 堀口 健雄 (北海道大学)  
 本村 泰三 (北海道大学)  
 寺田 竜太 (鹿児島大学)

和文誌の毎号に原著論文が掲載されることを目標に，投稿時の心理的なハードルを低減し，掲載までに要する日数の短縮を図ることにより多くの投稿を促すために，2020 年度より実行委員「論文通信担当」を設置し，岩滝，嶋田，四ツ倉，仲田，阿部，北山，倉島，豊田，島袋，秋野，芹澤 (松山) の各氏および芹澤が担当する。

「論文通信担当」は各担当者が毎年 1 報以上の原著論文を編輯する。そのために，同担当のメールアドレスを和文誌裏表紙に明記し，投稿の際に，編集委員長と論文通信担当の両方に同時に原稿を送付することとする。担当者は査読者の選定 (自身も選択肢とする)，査読依頼，投稿者と査読者との通信を担当する。査読者の選定困難などの場合，あるいは原稿の最終チェックでは委員長および岩滝副委員長 (統括論文通信担当) が支援する。なお，投稿規定の改定を進めており，投稿者が査読候補者 2 名の連絡先を投稿時に伝えられる様になること，投稿論文の区分などを検討している。

### 2. 第 67 巻までの刊行状況

#### (1) 第 50 巻以降の発行ページ数

50 巻 (2002 年) 190 頁 (A 4 版に変更)  
 51 巻 (2003 年) 206 頁  
 52 巻 (2004 年) 186 頁  
 53 巻 (2005 年) 260 頁 (海藻目録 (50 頁) 含む)  
 54 巻 (2006 年) 194 頁  
 55 巻 (2007 年) 238 頁  
 56 巻 (2008 年) 251 頁  
 57 巻 (2009 年) 167 頁

58 巻 (2010 年) 196 頁 (海藻目録 (54 頁) 含む)  
 59 巻 (2011 年) 179 頁  
 60 巻 (2012 年) 181 頁  
 61 巻 (2013 年) 174 頁  
 62 巻 (2014 年) 188 頁  
 63 巻 (2015 年) 218 頁 (海藻目録 (60 頁) 含む)  
 64 巻 (2016 年) 167 頁  
 65 巻 (2017 年) 184 頁  
 66 巻 (2018 年) 192 頁  
 67 巻 (2019 年) 149 頁

#### (2) 第 64 ~ 67 巻の記事種別内訳

64 巻: 原著論文 5 報, 藻類学最前線 5 報, その他の報文 11 報, 日本産海藻目録 (2015 年改訂版) の訂正, 第 40 回大会プログラム (東京大会), 学会録事等, その他 (遊藻子 3, 藻見遊山 1 など)  
 65 巻: 原著論文 3 報, 藻類学最前線 4 報, その他の報文 23 報 (研究奨励賞 / 論文賞, 藻類と学名など), 第 41 回大会プログラム (高知大会), 学会録事等, その他 (藻の見遊山 2 など)  
 66 巻: 原著論文 6 報, 藻類学最前線 6 報, その他の報文 16 報 (書評 2 報含む), 第 42 回大会プログラム (京都大会), 学会録事等, その他  
 67 巻: 総説 1 報, 藻類学最前線 10 報, その他の報文 16 報 (書評 2 報含む), 第 43 回大会プログラム (鹿児島大会), 学会録事等, その他 (遊藻子 3, 藻の見遊山 1 など)

### 3. 第 68 巻の刊行予定

#### (1) 各号の刊行予定 (例年通り)

1 号: 3 月 10 日発行 (刊行済み)  
 2 号: 7 月 10 日発行予定  
 3 号: 11 月 10 日発行予定

#### (2) 編集体制と印刷会社について

編集体制は上述 1. の通りである。印刷は 2006 年以降発注している株式会社イセブ(つくば市)に引き続き依頼する。

#### (3) 内容

原著論文, 藻類学最前線, 大会参加記, 研究奨励賞 / 論文賞受賞記念, *Phycological Research* 和文要旨, 学会録事, その他 (遊藻子, 藻の見遊山) などを掲載する。

### 4. 論文の投稿状況について

2014 年度以降の原著論文の投稿状況は次の通り。

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
投稿数	10	6	4	9	1	3	1
審査中							1
非受理	2	2	1	1	1	0	0

第 68 巻第 2 号の原稿は，過去の掲載漏れの短報が 1 報，2020 年度に受理された短報が 1 報，および現在審査中の短報 (4/28 に受理済み) が 1 報あるのみである。

投稿数の減少により掲載論文の確保が困難な状況が続いている。会員の積極的な投稿をお願いしたい。なお，中止となった第 44 回大会 (鹿児島大会) の公開シンポジウムの各演題に

ついて総説の執筆を依頼している。

また、1 頁につき 2 万円の著者負担となっているカラー刷り代金の一部および PDF 版の無料化、PDF 版のみのカラー化などを検討しており、早い時期に実施したい。

## 5. その他

### (1) 和文誌の論文賞について

掲載論文数の少ない現状では論文賞の募集・選考は困難であるが、投稿の動機付けのためにも今後も継続して可能性を検討したい。

### (2) 超過・別刷り料金体系の改善について

超過・別刷りの代金の計算が複雑（奇数ページで始まる

場合と偶数ページで始まる場合で料金が異なる、など）であるとの意見がある。カラー料金を含めたより分かりやすい料金体系を、印刷会社にも問合せながら編集委員会で検討し、改正後の料金体系の計算方法などについては、和文誌に掲載するとともに学会ホームページにも随時掲載していく。

### (3) 現行の投稿規定について次のような修正を行う。

- ・デジタルデータの送付方法から CD-R によるものを削除し、メールのみとする。また、投稿時に送付するデータのサイズはメールに添付可能なサイズで可とし、高解像度の画像などのサイズの大きなファイルは受取後に送付することとする。
- ・引用文献の例にホームページの引用を追加する。

## 資料別紙 5

### 2020 年度 一般会計予算 (案) (2020.1.1-2020.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	4,728,550	和文誌経費	1,600,000
普通 (国内・一般)	3,087,200	英文誌経費	5,420,000
普通 (国内・学生)	375,250	編集費	300,000
普通 (外国)	226,100	和文誌編集補助費	100,000
団体会員	860,000	英文誌編集補助費	200,000
賛助会員	180,000	庶務費	537,000
和文誌関係収入	446,250	事務用品費	30,000
定期購読	120,000	会議費 *1	100,000
バックナンバー	5,250	通信印刷費 *2	400,000
別刷・超過頁代	200,000	諸雑費	7,000
広告代	120,000	幹事旅費補助	80,000
著作権許諾料金	1,000	大会補助費	0
英文誌関係収入	2,300,000	自然史学会連合分担金	20,000
超過頁代	300,000	分類学会連合分担金	10,000
版權還付金 (収入の 20%)	2,000,000	レンタルサーバー代	7,500
受取利息	90	AlgaeBase への寄付	100,000
小計	7,474,890	派遣旅費補助	50,000
前年度繰越金	13,010,539	託児費補助 *3	30,000
合計	20,485,429	小計	8,154,500
		次年度繰越金	12,330,929
		合計	20,485,429

\*1 総会、シンポジウムの開催を想定して会場代や謝金等として計上しています。

\*2 会長・評議委員選挙が行われるため増額しています。

\*3 総会、シンポジウムの開催を想定して計上しています。

### 2020 年度 山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (案) (2020.1.1-2020.12.31)

収入 (円)	支出 (円)
受取利息	20
	各賞用雑費 35,000
	副賞費 85,000
前年度繰越金	2,136,737
合計	2,136,757
	次年度繰越金 2,016,757
	合計 2,136,757

学術賞 ¥30,000 × 1 名、特別賞 ¥30,000 × 1 名、論文賞 ¥5,000 × 5 名

### 2020 年度 研究奨励賞事業特別基金会計予算 (案) (2020.1.1-2020.12.31)

収入 (円)	支出 (円)
受取利息	20
	奨励賞賞金 200,000
前年度繰越金	1,842,579
合計	1,842,599
	次年度繰越金 1,642,599
	合計 1,842,599

奨励賞：2 名

### 参考資料：会費収入予測 (2020 年 2 月)

	会員数 (通常) *1	会員数 (自動) *1	会費	会員数 × 0.95 × 会費 *2
普通 (国内・一般)	302	99	8,000	3,087,200
普通 (国内・学生)	79	0	5,000	375,250
普通 (外国・一般)	31	0	7,000	206,150
普通 (外国・一般)	2	0	8,000	15,200
普通 (外国・学生)	1	0	5,000	4,750
団体会員	43	0	20,000	860,000
賛助会員	5	1	30,000	180,000
合計	560			4,728,550

\*1 雑誌送送会員数 (2020 年 2 月末日現在)

\*2 自動振替、団体会員、賛助会員の乗率は 1.00

英文誌経費 支払い予測  
PR68 (1)-(4): ¥ 5,420,000/4 issues

## 資料別紙 6

会則の改正について

2020年7月10日

会長 奥田 一雄

日本藻類学会会則について次の通り改正することを提案します。

## ・改正の理由

1. 会員の刑事事件による逮捕が明るみになり、刑の確定などの今後の状況の推移に備え、除名を含む会員資格の喪失の要件を定める必要が生じたため。
2. 会費滞納の増加により会員管理業務に支障をきたしており、連絡を停止した会員の会員資格の喪失の要件を定める必要が生じたため。

## ・改正の内容

## 第8条

(改正前)

1. 国内会員は毎年会費8,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。但し、名誉会員(次条に定める名誉会長を含む)は会費を要しない。外国会員の年会費は7,000円(学生は5,000円)とする。会長の承認を得た外国人留学生は帰国前に学生会費の10年分を前納することが出来る。団体会員の会費は1口30,000円とする。
2. 本会の趣旨に賛同する個人又は団体は、本会に寄付金又は物品を寄付する事が出来る。寄付された金品の用途は、第11条に定める評議員会で決定する。

(改正後)

1. 会員は会費を納めなければならない。
2. 国内会員は毎年会費8,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。但し、名誉会員(第10条に定める名誉会長を含む)は会費を要しない。外国会員の年会費は7,000円(学生は5,000円)とする。会長の承認を得た外国人留学生は帰国前に学生会費の10年分を前納することが出来る。団体会員の会費は20,000円とする。賛助会員の会費は1口30,000円とする。
3. 本会の趣旨に賛同する個人又は団体は、本会に寄付金又は物品を寄付する事が出来る。寄付された金品の用途は、第12条に定める評議員会で決定する。

第9条(新規;改正前の第9条以降の番号を順次繰り下げます)

1. 会員が退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。この場合、会費の滞納があるときは、未納額を納めなければならない。
2. 会員は、退会のほかに次の事由により会員資格を失う。
  - (1) 死亡、または会員である団体が解散したとき
  - (2) 会費を3年以上滞納したとき
  - (3) 除名されたとき
3. 前項により会員資格を失なった事由が消滅した場合は、当該会員の申し出に基づき会員資格を回復することができる。

※ 次回総会で上記の改正が承認された場合、付則第6条に示す改正後の施行日はその後の適切な日付とします。

※ なお、新しく追加された第9条に関する「日本藻類学会会則に係る取扱い申し合わせ」(会員の除名)を別紙7のとおり制定することを合わせて提案しています。

以上

## 日本藻類学会会則の一部を改正する会則の新旧対照表

新	旧
第1条～第7条(省略)	第1条～第7条(省略)
第8条 <u>1. 会員は会費を納めなければならない。</u> 2. 国内会員は毎年会費8,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。但し、名誉会員(第10条に定める名誉会長を含む)は会費を要しない。外国会員の年会費は7,000円(学生は5,000円)とする。会長の承認を得た外国人留学生は帰国前に学生会費の10年分を前納することが出来る。団体会員の会費は20,000円とする。賛助会員の会費は1口30,000円とする。 3. 本会の趣旨に賛同する個人又は団体は、本会に寄付金又は物品を寄付する事が出来る。寄付された金品の用途は、 <u>第12条</u> に定める評議員会で決定する。	第8条 1. 国内会員は毎年会費8,000円(学生は5,000円)を前納するものとする。但し、名誉会員(次条に定める名誉会長を含む)は会費を要しない。外国会員の年会費は7,000円(学生は5,000円)とする。会長の承認を得た外国人留学生は帰国前に学生会費の10年分を前納することが出来る。団体会員の会費は20,000円とする。賛助会員の会費は1口30,000円とする。 2. 本会の趣旨に賛同する個人又は団体は、本会に寄付金又は物品を寄付する事が出来る。寄付された金品の用途は、第11条に定める評議員会で決定する。

## 日本藻類学会会則の一部を改正する会則の新旧対照表（つづき）

新	旧
<b>第9条</b> <u>1. 会員が退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。この場合、会費の滞納があるときは、未納額を納めなければならない。</u> <u>2. 会員は、退会のほかに次の事由により会員資格を失う</u> <u>(1) 死亡、または会員である団体が解散したとき</u> <u>(2) 会費を3年以上滞納したとき</u> <u>(3) 除名されたとき</u> <u>3. 前項により会員資格を失なった事由が消滅した場合は、当該会員の申し出に基づき会員資格を回復することができる。</u>	(新規)
第10条（以下変更なし）	第9条（以下省略）
第11条（以下変更なし）	第10条（以下省略）
第12条（以下変更なし）	第11条（以下省略）
第13条（以下変更なし）	第12条（以下省略）

## 資料別紙7

## 日本藻類学会会則に係る取扱い申し合わせ

日本藻類学会

## 第9条関係（会員の除名）

会員が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の議決を経て、会長はこれを除名することができる。

- (1) 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき
- (2) 傷害、窃盗、痴漢などの犯罪を行った容疑に対し、裁判を通してその罪が確定したことが明らかになった場合
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき

以上